

外貿コンテナ取扱個数 過去最高を記録

石狩湾新港管理組合
北海道石狩市新港南2-725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
<http://www.ishikari-bay-newport.jp>
<http://www.facebook.com/ishikari.port>

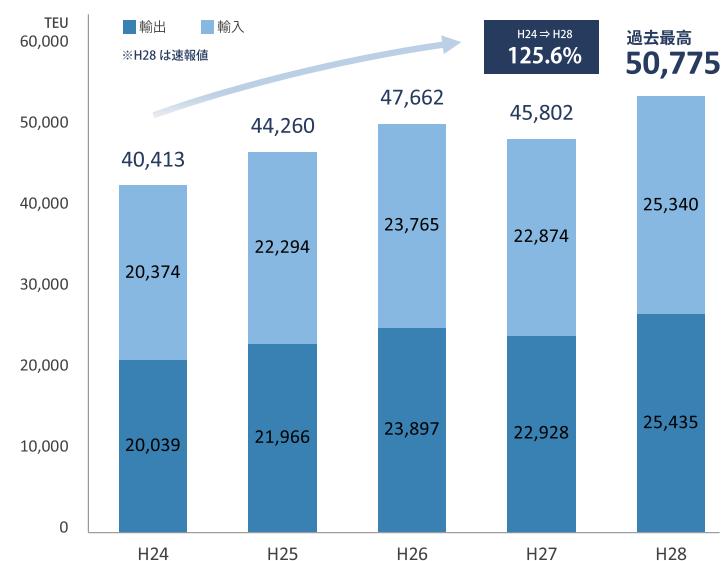
外貿コンテナ取扱個数 過去最高の50,775 TEU

取扱個数	
輸出	25,435 TEU (対前年比110.9%)
輸入	25,340 TEU (対前年比110.8%)
合計	50,775 TEU (対前年比110.9%)

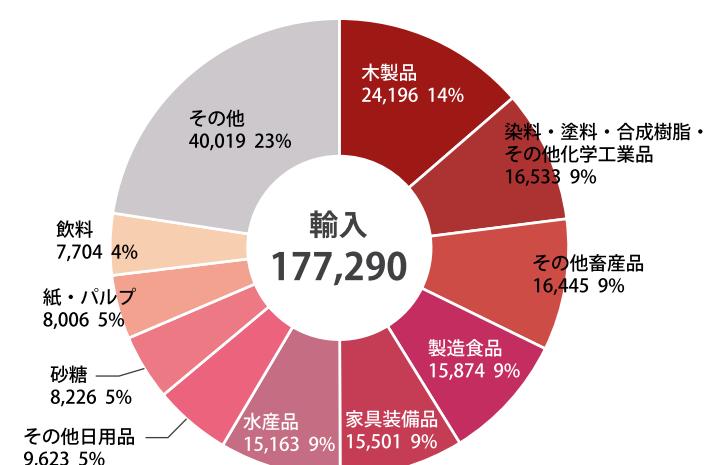
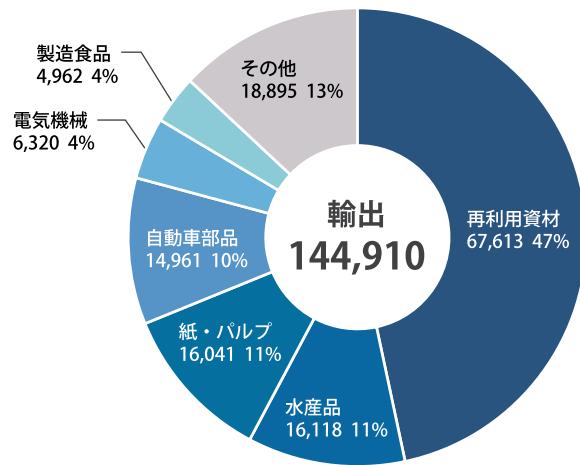
貨物量	
輸出	144,910トン (対前年比109.8%)
輸入	177,290トン (対前年比104.8%)
合計	322,200トン (対前年比107.0%)

平成28年の外貿コンテナ取扱個数は、過去最高の50,775TEUとなり、初めて5万TEUを突破しました。取扱個数は、輸出入共に伸びており、輸出は、古紙などの再利用資材の中国向けが堅調に推移したほか、東南アジア向けの紙・パルプの輸出が大幅に伸びたことから、総体で増加となっています。また、米や野菜のような北海道産の農産品の輸出量も増えてきています。

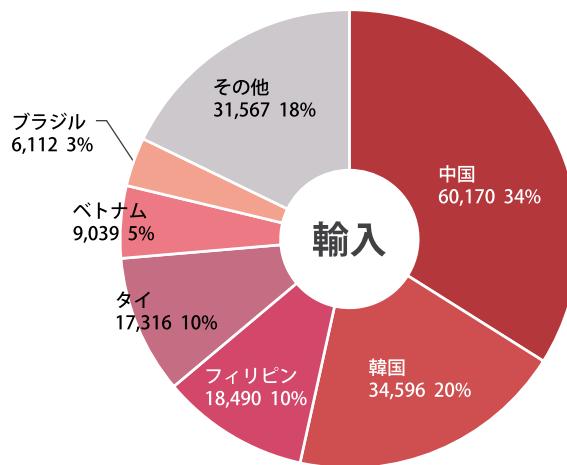
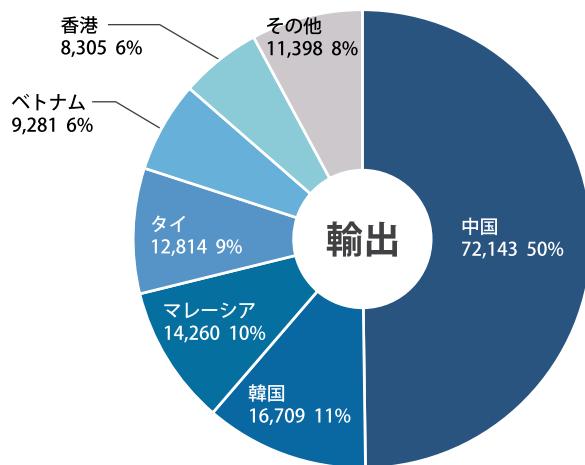
輸入では、東南アジアからの木製品や南米・オーストラリアからの畜産品、中国からの家具装備品といった近年本港の主要品目となっている貨物が堅調に推移していることに加え、東アジアからの飲料の輸入が増えてきています。



■ 平成28年外貿コンテナ貨物 品目構成 速報値 (単位: トン)



■ 平成28年外貿コンテナ貨物 国別構成 速報値 (単位: トン)



取扱貨物量 4年連続過去最高の595万6,734トン

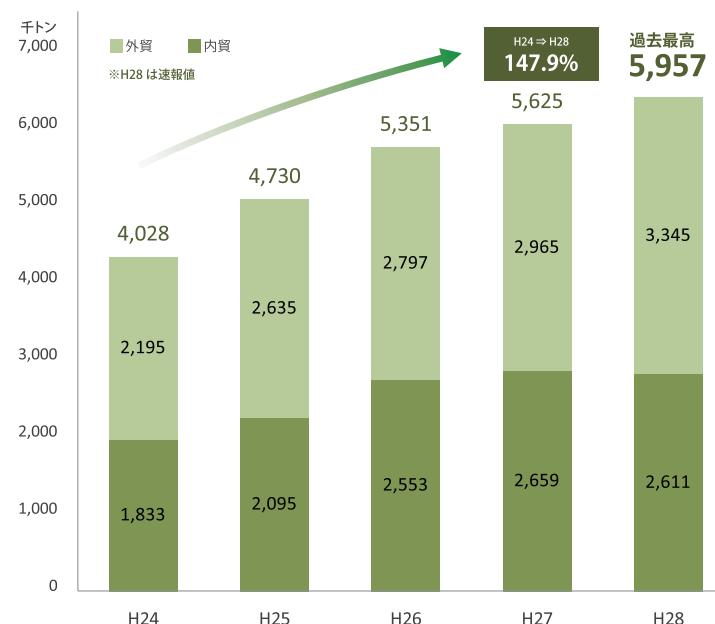


貨物量

輸出	31万9,526トン (対前年比109.6%)
輸入	302万5,961トン (対前年比113.2%)
移出	21万3,301トン (対前年比 69.0%)
移入	239万7,946トン (対前年比102.0%)
合計	595万6,734トン (対前年比105.9%)

平成28年の取扱貨物量は、前年比約6%増の595万6,734トンとなり、過去最高を更新しました。

主要取扱貨物であるLNG、木材チップ、金属スクラップはいずれも前年を上回り、特にLNGについては、昨年9月、中央地区に2基目となる北海道ガスのLNGタンクが竣工したことにより、輸入量が増加。さらに現在、北海道電力がLNGタンク2基を建設しており、竣工後はLNG輸入量の一層の増加が見込まれています。



平成28年 主な増加品目 速報値

LNG - 輸入 145万8,598トン(対前年比124.8%)



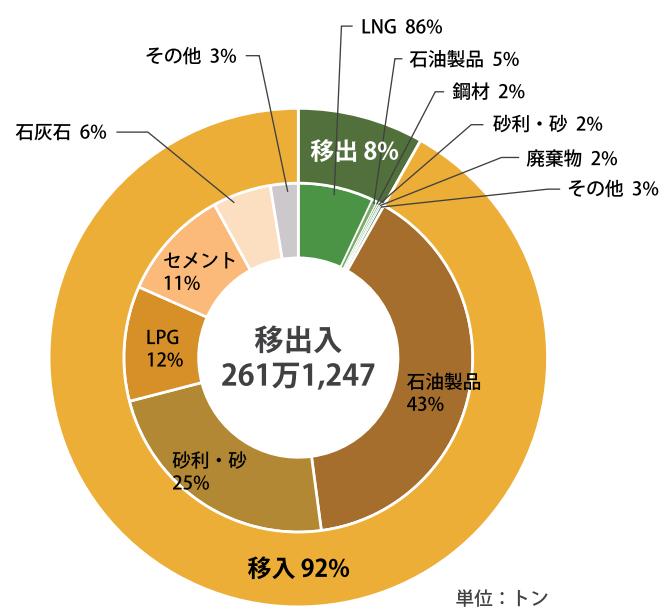
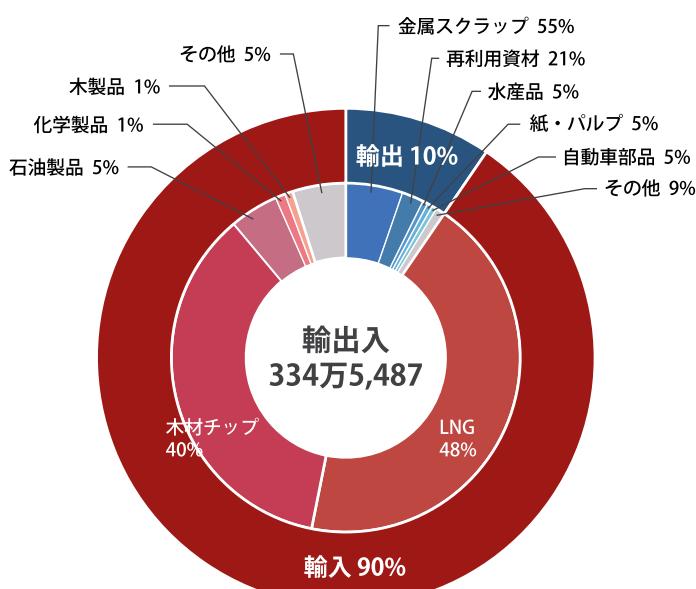
中央地区は北海道日本海側のエネルギー供給拠点

金属スクラップ - 輸出 17万6,720トン(対前年比110.8%)



東地区は札幌圏の静脈物流の拠点（リサイクル基地）

平成28年取扱貨物 品目構成 速報値



北海道産品の輸出拡大に向けて

ISHIKARI BAY NEW PORT
SAPPORO

Interview

北海道産品の海外への混載輸送サービスを提供

株式会社プライム・ストリーム北海道

マネージャー 榊原 由季 さん

— 会社概要

当社は、北海道産品を東南アジアへ輸出する企業や生産者を支援するため、2013年に設立しました。海外への輸送サービスのほか、地域商社として海外に道産品を販売しています。シンガポールにも現地法人「プライム・ストリームアジア」を設立し、道産品の販売、市場調査など海外展開を目指す企業等のサポートを行っています。



シンガポールでのデバンニング

— サービスについて

北海道産品の輸出促進を図るため、シンガポール向けに船便による冷凍混載サービスを行っており、代金決済を含む輸出代行業務を手掛けています。海上輸送の冷凍小口混載サービスは、定期的な運航を行っているサービスが少なく、利用が難しいことがあります。当社は東南アジアで販路を開拓する体制を築き、ニーズに合った商品を効率よく調達することでコンテナを埋め、定期運航を行っています。

海外での日本食への関心の高まりなどを背景に、北海道産食品のさらなる輸出拡大が期待される中、石狩湾新港の管理者である高橋はるみ北海道知事は、道産食品の輸出額を1,000億円に拡大する目標を掲げています。

石狩湾新港は、北海道経済の中心地である札幌圏に位置し、港の背後には北海道最大級の冷凍冷蔵倉庫群が形成されるなど、道産食品の輸出拠点としての役割が期待されています。

今号では、石狩湾新港を活用した輸出事例を紹介します。

— 石狩湾新港の活用について

輸出は月1回程度のペースで、石狩湾新港から釜山経由でシンガポールへ運んでいます。20フィートの冷凍コンテナ1本を使用し、函館方面のスイーツや小樽方面のアイスクリーム、その他冷凍水産品などを主に輸出しています。

石狩湾新港は、貨物が多く集まる札幌に一番近く、陸送距離でメリットがあるため、当社では一度、北海道各地の貨物を石狩湾新港地域の冷凍冷蔵倉庫に集約し、1本のコンテナにまとめて輸出しています。港のすぐ背後に冷凍冷蔵倉庫が集積している石狩湾新港は、北海道産品の輸出に優位性が高いと感じています。



石狩湾新港地域の冷凍冷蔵倉庫に北海道産品を集約しコンテナ1本に仕立てる

— 石狩湾新港に期待すること

外貿コンテナ航路の便数や寄港地が増えて、さらに利便性が高まること、また、定温貨物の混載ができるCFS(コンテナ・フレイト・ステーション)の整備など、北海道産品の輸出拠点として、より使いやすい港になることを期待しています。

— 今後の取り組みについて

今後は、牛肉やアルコール飲料など今まで取扱いの無かった商品の輸出にも取り組み、北海道の優れた食の魅力をさらに発信し、北海道産品の輸出拡大に貢献していきたいと考えています。

特集

冬の石狩湾新港ってどうなの??

冬季でもコンテナターミナルをクローズしたことはありません。

石狩湾新港サービス株式会社

港運部 係長 菅原 雅敏 さん



当社は、石狩湾新港において、コンテナターミナルのオペレーションや上屋管理などの港湾運送事業を行っています。

お客様から、冬の物流について、ご心配の声をいただくことがあります、冬季に積雪等で石狩湾新港のターミナルがクローズしたことは過去に一度もありません。

その要因の一つは、除雪の体制が十分に整備されていることです。石狩湾新港は、北海道の日本海側に位置しており、地理的に雪が降ることを前提に運営されているため、関係者が協力して、ターミナルゲートのオープン時間(AM8:30)前に除雪を終え、コンテナの搬出入ができる体制を整えています。

また、寒冷地仕様のガントリークレーンや降雪地用スプレッダーを装備したリーチスタッカーなど、冬季に対応した荷役機械が整備されているため、安定した荷役作業を実施することができます。



コンテナターミナルの除雪



札幌中心部まで約15km、片道3車線の幹線道路が複数ルート接続

北海道は札幌発着の貨物が大部分を占めています。都市間距離が本州に比べて長いため、道内の他港から札幌への貨物輸送は、高速道路を利用するケースがあります。しかし、積雪等で高速道路が通行止めになると、その影響で国道などの幹線道路が渋滞し、物流機能が麻痺してしまうことがあります。冬季の道内物流の課題となっています。その点、石狩湾新港は札幌から約15kmの近距離にあり、片道3車線で整備された複数の幹線道路で札幌市内にアクセスできることから、高速道路に頼らず、冬季でも安定した物流環境を提供することが可能です。

今後も、港湾管理者や各港湾運送事業者と連携して、一年を通してお客様に安心して石狩湾新港をご利用いただけるよう努めていきます。

Topics

コンテナヤードの蔵置能力増強と2基目のガントリークレーン整備へ

- 4.0ヘクタール ⇒ 9.0ヘクタールへ拡張
- リーファーコンテナ用コンセント60口増設 [90口 ⇒ 150口]



平成29年度～
2基目のガントリークレーンの整備に着手
(平成29年度は整備に向けた調査)

平成29年度～ 整備予定